



Enterprise Architect 12.1 feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 12.1 機能ガイド

(2015/10/29 最終更新)



このドキュメントでは、Enterprise Architect 12.1 で追加・改善される予定の機能についてご紹介します。
青字の文字は操作方法を示しています。

なお、利用できるエディションが限られる機能もあります。ご注意ください。

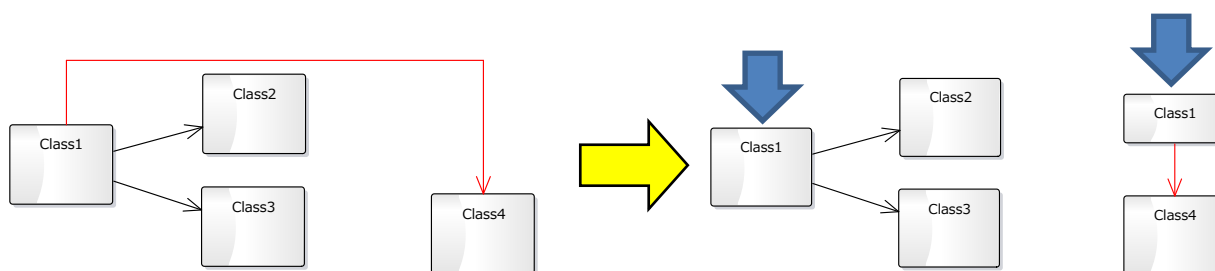
ダイアグラム内の表現強化

バージョン 12.1 でも、ダイアグラム内での表現についてさまざまな強化を行いました。そのうち、いくつかの強化点をお知らせします。

要素の複数配置

まず、要素間の接続が複雑な場合に見やすくするために、1つの要素を複数配置する機能を追加しました。以下の例のように、同じ要素を複数配置することで、接続の線の取り回しが不要になり、要素間の関係をわかりやすく把握できるようになります。

(対象の接続を右クリックして、「要素の複数配置」→「ソース」(あるいは「ターゲット」))



なお、この機能は1つの要素を無条件に図に配置できる機能ではありません。要素間にスタイルが「カスタム」の接続がある場合のみ実行できます。

ロードマップ(時間軸)の表示

ダイアグラム内にロードマップ(時間軸・目盛り)を表示する機能を追加しました

(対象のダイアグラムの背景で右クリックして、「ロードマップ表示の設定」)



このロードマップ形式での表示が有効になっている場合には、ダイアグラムに配置する要素の大きさは、横長の四角形で表示されます。

(配置後に大きさを自由に変えることが可能です。)

また、凡例要素と組み合わせて利用することで、個々の要素を色分けすることもできます。色分けした範囲は、ドラッグして幅を変えることができます。

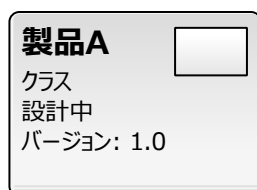
(「ロードマップ表示の設定」画面の「凡例要素の設定内容を要素の区切りに利用」にチェックを入れる)



情報ビュー形式の表示

それぞれの要素について、指定した情報だけを表示する「情報ビュー」形式での表示に対応しました。この機能は、上記のロードマップ形式での表示時にも有用です。

(ダイアグラム内の要素を右クリックし、「情報ビュー」→「有効」)

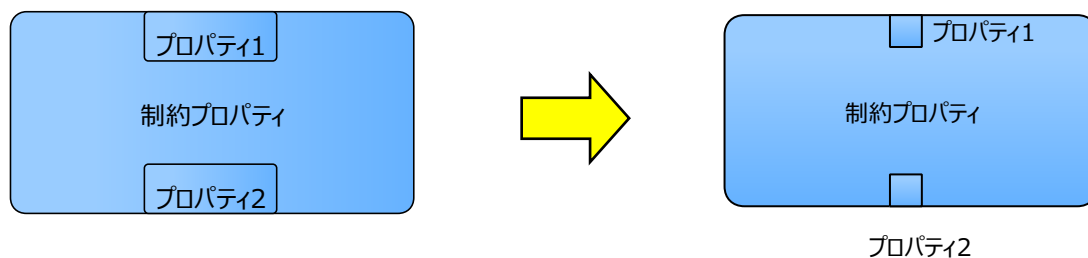


SysML への対応強化

SysML の最新バージョンである SysML 1.4 に対応しました。SysML1.4 で追加された要素の利用や、SysML1.4 で変更となった点に対応しています。

(SysML1.4 の内容で、一部対応できていない点もあります。)

また、ご要望が多かった、パラメトリック図におけるプロパティ要素の表現についても修正いたしました、



バージョン 12: プロパティ名は四角内に表示される

バージョン 12.1: プロパティ名は任意の位置に移動可能

BPMN2.0 で定義した内容の業務シミュレーション

BPMN 2.0 で定義した業務フローなどのモデルに対して、実施時間やコストなどの情報を設定してシミュレーションを実施し、その結果を取得できる機能を追加しました。

(ツールボックス「拡張要素」内の「BPMN シミュレーション」要素をダイアグラム内に配置し、右クリックして「BPSim の設定」を実行)

この機能は、BPSim 1.0 に準拠していますので、Enterprise Architect で作成したモデルを、他の BPSim 1.0 対応のシミュレーションツールで実行することもできます。

(「BPMN シミュレーション」要素を右クリックして「BPSim の設定の出力」を実行)

メニュー構成の変更

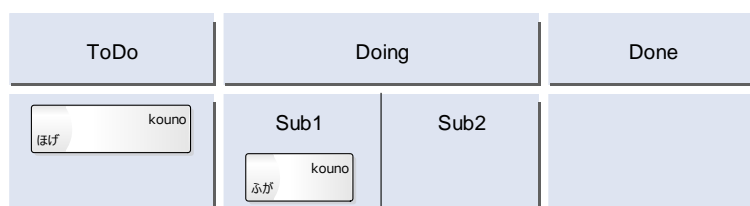
よりわかりやすいメニュー構成とするために、メインメニューの構成を見直しました。大きな変更点は次の 2 点です。

- ・ 「設定」メニューを廃止し、「プロジェクト」メニューの中に移動しました。
- ・ 「パッケージ」メニューを追加し、パッケージに対する操作・機能をまとめました。

過去のバージョンとのメニュー位置の対応は、このドキュメント末尾の表をご覧ください。

その他の主な変更・改善

- Windows 10 を正式対応環境としました。
- NIEM 3.0 (OMG NIEM-UML 1.1) に対応しました。
- 印刷やドキュメント出力の対象にしない要素を指定できるようになりました。
(ダイアグラム内の要素を右クリックし「印刷対象」の項目のチェックを外す)
- カンバン機能で、レーン内にサブレーンを追加できるようになりました。
(「レーン・マトリックス・カンバン」画面の「カンバン」タブ内にある一覧内の項目を右クリックして「サブレーンの作成」を選択)

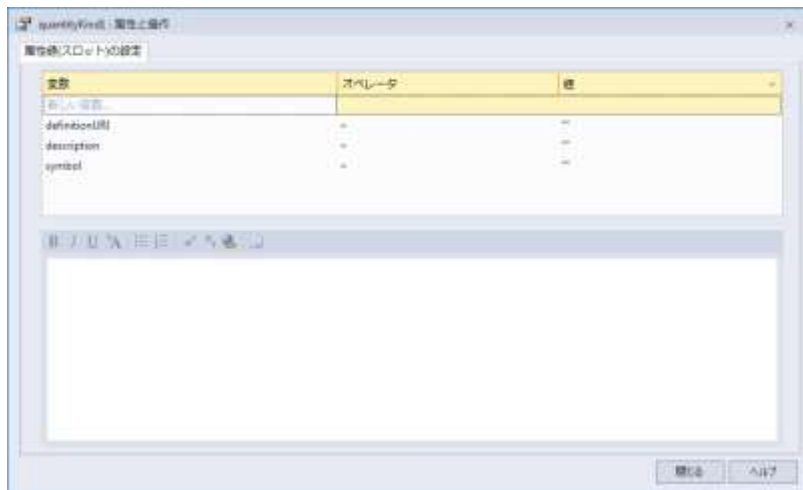


- チャートの形式として、ヒートマップ形式が選択できるようになりました。
(チャート要素のプロパティ画面の「ソース」タブ内にある「種類」の項目で「ヒートマップ」を選択)



- チャートとして表示する内容の解析対象として、他のプロジェクトを指定することができるようになりました。これにより、複数のプロジェクトの状況をまとめて1つのプロジェクト内に表示できるようになりました。
- セキュリティ(アクセス権)機能で、ユーザーやグループの定義・編集画面を改善しました。
- スタートページに表示されている、過去に利用したファイルの一覧を右クリックして履歴からの削除や別プロセスで開くことができるようになりました。
- ヘルプを chm 形式から HTML 形式に変更し、既定の設定では Web サイトの内容を表示するように変更しました。
 - ヘルプの情報は別途ダウンロードし、ローカルのファイルを参照することも可能です。
(メインメニューから「ヘルプ」→「インターネットの情報」→「ヘルプファイルのインストール」を選択)
- ArchiMate 2.1 に対応しました。
- ソースコード生成テンプレートで、list マクロで他のテンプレートを呼び出すときに引数を渡すことができるようになりました。

- API で、ダイアグラム内の要素や接続の情報を取得・設定するための属性を多数追加しました。
- スロット(属性値)の設定ダイアログの内容・操作体系を改善しました。
(インスタンス要素を右クリックして、「属性・操作・インターフェース」→「属性値(スロット)の設定」を選択)



- ダイアグラム内に画像を配置した際の、描画を向上しました。
- セキュリティ(アクセス権)機能を利用する際に、ある要素がロックされている場合にその要素が保持する接続もロックする動作を選択できるようになりました。
(メインメニューから「プロジェクト」→「セキュリティ」→「接続にもロックを適用する」を選択すると、動作を切り替え可能)
- ノートなどのエディタで利用するフォントを、以下のフォントに変更しました。
 - Windows 10: 游ゴシック
 - Windows 7,8.1: Meiryo UI
 - Windows Vista: メイリオ
 - 上記以外の OS: MS UI Gothic

メニュー項目の対応表

○表示メニュー

ビルド 1215	最新ビルド(ビルド 1220)
パッケージブラウザ	パッケージメニューへ移動 メニュー名変更:一覧形式で表示
仕様ビュー	パッケージメニューに移動
デシジョンテーブル	ツールメニューに移動
チームレビュー	プロジェクトメニューに移動
メッセージボックス	プロジェクトメニューに移動
自分のタスク	プロジェクトメニューに移動
ツールバー	

デバッグ	名称変更:デバッグ
------	-----------

○プロジェクトメニュー

リソース	表示メニューに移動
ベースラインの管理	パッケージメニューに移動
モデルテンプレートの利用	パッケージメニューに移動
パッケージの追加	パッケージメニューに移動
ダイアグラムの追加	ダイアグラムメニューに移動
ドキュメント	パッケージメニューに移動
ドキュメントの生成	パッケージ ドキュメント に移動
HTMLドキュメントの生成	パッケージ ドキュメント に移動
ダイアグラムだけのドキュメントの生成	パッケージ ドキュメント に移動
モデルの評価	パッケージメニューに移動
選択された項目を評価	パッケージ モデルの評価 に移動
評価のキャンセル	パッケージ モデルの評価 に移動
設定	パッケージ モデルの評価 に移動
モデルの読み込みと出力	パッケージメニューに移動
選択された項目を評価	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
評価のキャンセル	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
設定	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
選択された項目を評価	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
評価のキャンセル	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
設定	パッケージ モデルの読み込みと出力 に移動
モデルの出力	パッケージメニューに移動
パッケージリポジトリ	ツールメニューに移動

○ダイアグラムメニュー

ダイアグラムのレイアウト	名称変更:レイアウトツール
追加設定	-
-	新規追加:手書き風
ダイアグラムのロック	ダイアグラムメニューに移動 名称変更:ロック
最後に作成した要素を再作成	編集メニューに移動
最後に作成した接続を再作成	編集メニューに移動
ダイアグラムの概要ノートの挿入	ダイアグラム 追加設定 に移動

○要素メニュー

書式設定		-
	プロジェクトの画像を適用	名称変更:画像を選択
追加設定		-
	ドキュメントの生成	要素メニューに移動
ソースコード生成		名称変更:ソースコード
	選択した要素の読み込み	名称変更:選択した要素のソースコードを読み込み
	選択した要素の一括読み込み	名称変更:選択した要素の一括ソースコード読み込み
ソースコードサブウィンドウ		ツール ソースコード ソースコードサブウィンドウに移動

○ツールメニュー

ソースコードの生成と読み込み		ソースコード
	パッケージ内の要素のソースコードを生成	パッケージ ソースコード に移動
	パッケージ内の要素のソースコードの読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	ソースディレクトリの読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	バイナリモジュールの読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	リソーススクリプトの読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	ActionScript の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	C の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	C#の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	C++の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	Delphi の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	Java の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	PHP の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	Python の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	Visual Basic の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
	VB.Net の読み込み	パッケージ ソースコード 読み込み に移動
データベース		パッケージに移動
	ODBC 経由で DDL の読み込み	パッケージ データベース に移動
	パッケージの DDL を生成	パッケージ データベース に移動
WSDL		削除
	WSDL の読み込み	パッケージ XML に移動
	WSDL の生成	パッケージ XML に移動

XML スキーマ		パッケージメニューに移動 名称変更:XML
	XML スキーマの読み込み	パッケージ XML に移動
	XML スキーマの生成	パッケージ XML に移動
モデル変換(MDA)		パッケージメニューに移動 名称変更:モデル変換
	選択した要素を変換	要素 追加設定 に移動
	モデル変換テンプレート	ツールメニューに移動
プロジェクトのオプション		プロジェクトに移動

○設定メニュー

-		削除
	UML に関連する定義	プロジェクト 設定 に移動
	プロジェクトの既定値	プロジェクト 設定 に移動
	メンバー	プロジェクト 設定 プロジェクトの既定値 に移動
	既定値	プロジェクト 設定 プロジェクトの既定値 に移動
	プロジェクト管理	プロジェクト 設定 プロジェクトの既定値 に移動
	保守	プロジェクト 設定 プロジェクトの既定値 に移動
	ユースケース測定	プロジェクト 設定 プロジェクトの既定値 に移動
	モデルの名前空間	プロジェクト 設定 に移動 名称変更:名前空間
	テンプレートパッケージの指定	プロジェクト 設定 に移動
	自動カウンター	プロジェクト 設定 に移動
	MDG テクノロジー	アドイン・拡張 に移動
	ローカルパス	プロジェクト 設定 に移動
	プログラム言語のデータ型	プロジェクト 設定 に移動
	プログラム言語のマクロ	プロジェクト 設定 に移動
	データベースのデータ型	プロジェクト 設定 に移動
	画像	プロジェクト 設定 に移動 名称変更:画像の管理
	独自定義の色情報	プロジェクト 設定 に移動
	独自定義の色情報を取得	プロジェクト 設定 に移動
	独自定義の色情報を設定	プロジェクト 設定 に移動